＜八代市／各団体＞

日　時：令和２年１０月１６日（金）１０時００分～１１時４５分
会　場：熊本県南広域本部　５階　大会議室
参加者：１６名

【発言者①（八代地域農業協同組合）】
　ただいま御紹介にありました、ＪＡ八代の〇〇でございます。本日はお世話になります。よろしくお願いいたします。
　八代管内におきましては、ＪＡの農産物の販売では令和元年度で２６０億の販売額がありまして、熊本県下では１５００億の販売額がございますが、これはいわゆる消費者に生活する上での食料を生産して国民の食を守るということが一番大事なことというふうに思っているところでございます。
　そのなかで、農業と水のかかわりにつきましては、八代といいますとイ草、畳表が以前から非常に盛んに行われておりますが、現在では面積は若干減りましたものの、平成元年度の時点では、約５，０００ヘクタールの八代平野のイ草栽培面積でございました。
　これは、イ草の最盛期には生育最盛期には、１日１０アール当たり大体１０トンぐらいの水分が必要といたしますし、その面積からしますと大体１日５０万トンぐらいの水が必要というふうになるわけでございます。
　すべて球磨川の水で支えているというわけではございませんが、しかしそのなかでこの球磨川の水の恩恵に預かり八代平野の農業がこれまで基礎ができたというのは過言ではないというふうに思っております。
　ただ、非常に大事な水でございますが、今回の予期せぬ水量によりまして、豪雨災害が起きたわけでございますが、特に坂本地区においては土石流が水田に流入し、人の力ではなかなか回復が困難な状態になって、特に、高齢者が多い農業地帯でございますので、ライスセンターや茶工場は壊滅な状態で非常に坂本の地区を中心とした河川域の皆様が非常に憔悴しきった状態にあるわけでございます。
　今後、このような河川流域の皆様が、安心して生活ができる、安心して農業ができるようには、やはりその対策につきましては、しっかりと検討していく必要があるというふうに思っておりますし、ただ今説明がありましたダムありきではございませんが、これが少しでも解決策ということでございますと、しっかりと協議を進めていただきたいというふうに思っているところでございます。
　組合員全員のいろんな御意見をまだ聞いているわけではございませんが、

我々も地域住民の方とずっと現地を視察する中で、非常に今後、その地区で生活ができていけるのか、農業ができていけるのかという不安な状況にございますので、一刻も早く対策につきましては検討を進めていただきたい。

場合によって、これが今お示ししたダム等の力によって回復が少しでもできるようであれば、それも一つの検討の枠ではないだろうかというふうに思っているところでございます。

漠然としていますが、以上でございます。

【発言者②（八代平野北部土地改良区）】

今日は発言の機会を与えていただき、大変感謝いたしております。ありがとうございます。

八代平野北部土地改良区の〇〇と申します。

八代平野北部土地改良区としては、川辺川ダムはぜひ作っていただきたいという気持ちでおります。

まず、豪雨検証委員会において必要性が２回実証されております。また、浸水被害が６割軽減され洪水の水位が２メートル以上下がるということが計算で出ておりますので、６３名犠牲者が出られましたけれども、そのなかで一人でも多くの命が救われたのであれば、やはりダムは必要ではあったのではなかろうかと思っております。

また、現在流域全部の市町村長さんたちが建設を決議し、知事への要求また県議会への請願がなされていると伺っております。

私たちの八代平野北部土地改良区には、貯水できるダムの建設を望みます。荒瀬ダムの撤去以降、渇水時にはどう対策をしていいものか何回も悩んでおります。

瀬戸石ダムにも放流の協力をお願いして凌いでまいりましたけれども、その瀬戸石ダムも現在壊れてしまいました。遥拝頭首工は毎秒１５トン以上の水流の放流が定まっておりまして、八代平野北部地区の受益組合員５，２５２戸、４，７００ヘクタールの農地に安定的に水を送り届け供給するためには、穴あきダムでは絶対に無理です。水量調整可能なダムが必要なのです。

自然は時に辛辣で無慈悲です。大雨では圃場が冠水していないかとおろおろ歩き回り、渇水では田植えができない、植え付けた稲が干ばつで枯れてしまいそうだとまたおろおろ歩き回ってしまいます。

そのようなことがないために、貯水型の川辺川ダムはぜひとも作っていただきたいと思います。

川辺川ダムはすでに、８割の手続が終了し、あとは一部の契約と本体工事のみとなっております。ダムを決断さえすれば最速最短で洪水対策と治水対策が

できます。
　川辺川ダムだけで治水が不足であれば、ほかの治水対策と組み合わせ堤防をかさ上げ掘削、引き堤、護岸整備などを含めて、安全度を高めることもできます。
　蒲島知事におかれましては、ぜひ川辺川ダム着工を御決断いただき、一日も早く多面的に安全確保ができるように土地改良一同願っております。
　本日はありがとうございました。

【発言者③（八代平野南部土地改良区）】
　八代平野南部土地改良区の〇〇と申します。
　今回の豪雨災害によりまして、人吉地区、球磨、坂本、私たちは北部の土地改良区の皆様と一緒にボランティア活動で坂本のほうに行ってまいりました。
　私たちのボランティア活動で行ったところは、もうここには住まないといって家財道具なんか全部出してしまってくださいということで、私たちは参加して、そして最後に帰るときにそこの家の方が涙を流して、ありがとうございましたと言われて、私たちは一緒にボランティア活動に参加して、もう災害は御免だというふうに感じながら帰ってきたところだったんですが、南部地区におきましては、球磨川の水の恩恵にあずかっているわけですが、南部としましては排水機場を抱えておりまして、トマト農家の一部の方から苦情が出ておりまして、豪雨によりましてハウスが浸かってしまった、増水してトマトの木が枯れて困っておりますということで苦情を受けています。
　なぜ、そうなったんだろうかということで、排水機場の早期稼働が問題じゃないのですかという指摘を受けております。
　これは、よくあとで検証してみないとはっきりとしたことはわからないんですが、トマト農家さんが水島地区、催合地区たくさん（聞き取れず）抱えております。それで各農家さんたちの考えも豪雨を想定した栽培のやり方、各個人でやられておられるところもあります。
　擁壁を高くしてハウス内を強制的にポンプアップして増水からトマトを守る、そういうやり方をやっておられるところもあります。
　それで、一概に排水機場の稼働が遅かったから被害を受けたということは、これも検証してみないとわからないことでありまして、補償問題にまで発展するということで、私たち、行政の皆様方から助言をいただいて、これからどうやって排水機場を稼働し、管理していけばいいのか戸惑っているところなんです。
　そういうことで、最近の雨の降り方、線状降水帯というものが頻繁にいわれてきております。敷川地区におきましても山からの土砂が豪雨によって用水路

に流れ込んだりして、多量に土砂が流入して用水の流れをストップしておりました。業者さんに頼んで土砂を撤去したりしておりますが、それは一部でまだできていない箇所も何か所もございます。

　そのように用水路のかさ上げだったり、山の河川、砂防を設置していただいたり、いろんな対策があると思いますけれども私も〇〇になりまして、１年半過ぎたばかりで戸惑っているところなんです。どうか行政の方、県の方々、助言をいただきまして、これからの豪雨災害に対策に助言いただければ、逆になりましたけれどもよろしくお願いいたします。

　以上でございます。

【発言者④（八代森林組合）】

　私は、八代森林組合の〇〇といいます。

　私が住んでいるところは旧泉村でございまして、川辺川の一番上流の五家荘地区、これも氷川と球磨川の川辺川の分水嶺を越えて管轄になっております

　それから八代管内の森林組合の範囲といいますと、今度被災しました坂本町、これは平成１４年までは八代南部森林組合、それから同じく東陽、泉のほうは氷川森林組合でございました。

　広域合併をいたしまして、森林整備を進めているわけでございますが、私たちも覚えている範囲内ではここにデータが出ておりますように４０年とか５７年とか今回３回目ということで、大規模な豪雨によって被害を受けているとそういう感覚が私も覚えております。

　私も行政におりました関係であちこち五家荘も行きますし、合併して〇〇になりまして、八代南部、二見それから東町、日奈久、坂本地区を集落、それから山林をずっと見てまいりましたけれども、非常に戦後植えた山が整備が遅れていると、県から御指摘がありまして間伐も推進しているわけですけれども、なかなか一気には進まないと。この辺を財政支援それから計画的に進めなければさっき言われた豪雨による災害の軽減につながらないだろうと思っております。

　今回の７月豪雨でも五家荘に行ってみますと一部は孤立して避難生活をした。旧泉村の地区です。五木村の上流なんですが。それと、ずっと登ってみますと戦後植えた木が住宅難で国も奨励して、国有林の伐採が相当ありました。いわゆる中央山地、高い海抜まで相当木材利用ができる資材については伐採をして搬出したと。そのあとに、人工林、杉、ひのきを主に植栽してきたわけですが、なかなか地盤の強化とか例えば保水力とかこういうものは広葉樹に比べたら劣ります。

　泉村としましては、五家荘地域の振興と考えまして、広葉樹を村で買い取り

まして、観光資源にする。それと治水の上からもいいだろうということで、何十年もかけて買ってきております。それがそのまま残っております。観光資源でもありますし、景観の保持それから五家荘らしさを維持しているわけです。

ただ、人工林に関して植えたやつは今さっき言いましたように、間伐をしたり伐採をして搬出しなければなりません。そういう現状であります。

それで、今回災害を受けましたうちでいいますと、八代森林組合の南部支所といいますけれども、さっき写真が載っておりましたけれども、坂本支所のすぐ上流にあります。５００メートル離れるか離れないところです。

そして、合併以来南部地区から要望がありました事務所の改築といいますかそれにやっと２０年かけて頑張って基金を積み立てまして、今年の４月２１日に竣工したわけです。いわゆる南部支所です。ところが２か月ちょっとで７月に水没してしまったと。

非常に私も一生懸命頑張ってちゃんと建てたのに落胆したような精神的なダメージを受けたわけです。組合員さんはもっとそれ以上にダメージを受けていらっしゃると思います。

今のところは、仮設のリースで同じところで業務をするということで、ここ１週間くらいで再開しますけれども、今、八代市も復興計画を立ち上げておりますが、午後も会議がありますが、八代の坂本地区の住民の方の御意向を踏まえて支所の維持とかそういうのに連動してうちの南部支所を形成していこうと思っております。

それと県からの説明がありましたけれども、これは自然災害ですから１００％災害を回避することはできないと思います。それぞれの分野で最大限に効果を生むような事業を推進する。

私たちは、森林組合ですから森林整備をちゃんとする。それから、そのためにはどういうふうにするか。川辺川ダムの過去の推移を知っておりますけれどもいろいろ議論が賛否両論ありまして、今中断をしております。

この中断をした結果を、この度の災害を踏まえてそれぞれの皆さん地域住民、流域住民のいろんな意見を出していただいて、そのあとで最大の効果の上がる方策を決定していただければと私は思っております。

以上です。

【発言者⑤（八代漁業協同組合）】

八代漁協の〇〇です。７月の豪雨水害を県、国、市の協力のもと迅速に漂流物の処理を行っていただき感謝しています。お陰で沿岸の漂着物は大分減りました。今後もよろしくお願いいたします。

今回の水害でかなりの流木やゴミが海に流れ、動くものに関しては漂着物と

して各機関に回収をしていただいたが、海底に沈んだ木やゴミはまだ手付かずのままだ。

今からの時期、八代海名産の足赤エビが獲れるのだが、その海底に木やゴミがじゃまをしている。網が流せない状態です。また、網が破れる被害が多発している。

足赤エビは、漁業者の貴重な収入源にもなり、困っております。県としても何か対策を考えていただきたい。規模が大きすぎてとても漁協単独ではどうにもならないのであります。網を中心に漁業者にとっては今後、死活問題にもなってくると思われる。

今回の水害で球磨川河口域の一部ではかなり土砂が蓄積し船舶の航行に支障をきたしている。航行中、舶用プロペラを損傷した事案が多発している。干潮２時間では、航行できずに（聞き取れず）しなければならないことがある。天候は急変した場合に速やかに避難できないことが懸念され、命の危険性を伴う。

このような災害早期においては、県も一般会計の掘削、浚渫等に速やかに対応して事業を考えていただきたい。

ダム建設については、漁協としては反対です。今まで市房、瀬戸石、荒瀬ダムと建設されたが、その度に海に与える影響は大きいものがあり、今では八代の干拓は砂の需給はなくなり、露地は全然見えなくなった。

その代わりにヘドロが多くなり、ひどいところでは海底からガスが湧いている状況でございます。一度知事も来ていただければと思っております。

荒瀬ダムは撤去されたが、その５０年以上にもなる蓄積された泥はどこへ流れていくのだろうか。回収できるところは回収されているみたいだが、できない箇所は最終的には海に流れてしまうのではないかと。

どのダムの建設のときにも海への影響は少ないと考えられていたため、時には協議の場にも呼ばれないことがあったと聞いております。

ただ、今回の人吉球磨地方の浸水を見れば、ダムの必要性を考えさせられるものでもありました。

知事はダムによらない治水対策を極限まで追求するとおしゃっておられましたが、ぜひ極限まで追求していただきたい。

仮に、ダム建設という方向性になった場合、必ず海には影響が出るという考えをもっていただき、それにおける対策、協議の場を設けていただきたい。

そのときに協議次第で反対意見も出るかもしれません。これが、八代漁協の意見です。

どうもありがとうございました。

【発言者⑥（八代商工会議所）】

八代商工会議所の〇〇でございます。本来、会頭が来て意見を述べるところでございますが、所用のため代理として来ております。

八代商工会議所は御存知のように、八代市の旧八代市を統括を管理し、商工業の発展というかたちでございますが、坂本町の方はお隣の八代市商工会というかたちで、今回の坂本町の被害に対して我々もすぐ商工会様の方には、何かお手伝いをできることはないかというようなお話も申し上げましたし、なかなかひと山越えただけでも見えないということの被害状況が直接見えないということで、ものすごく坂本の方々においては、熊本地震の熊本市と益城と同じようなかたちでものすごく、今後疎外感というのが出てくるんじゃないかというようなことも危惧しております。

八代商工会議所管内では、今回の豪雨においては一応１５件７，１００万程度の被害が出ております。

当日、７月４日の萩原の堤防の状況を確認したときに、これで八代もというような本当に気になりましたし、あのときに市房の放水という聞いた瞬間に私どもは職員に垂直避難というようなかたちでＬＩＮＥで連絡をしたところでございます。

市房がなかったから、八代、今旧市街地も残っているのかなというぐらいに本当に当日は心配をしておりました。

まず、治水においてですけれども、７月３日、４日ということで、７月の平均雨量を超えたということで、私も昭和４０年の大雨のときには小学校５年生ということで萩原に住んでおりましたので、そこの萩原橋の横の旅館が球磨川に飲み込まれて倒壊していくということを実際私も目の当たりにしました。

ああいう恐怖のなかで、あれ以降、球磨川で遊ぶということが多分なくなったんだろうなというふうに思っております。

その結果、川辺川ダム建設計画、かさ上げとか、浚渫工事とかいうような様々なことが行われているということは承知をしています。

私ども経済界においても、こういった土木や気象学の専門家がいるわけではございませんけれども、今回の判断で八代の旧市街のほうが浸からなかったのは先ほど申しましたように、市房ダムの放水がなかったからなのか、八代では荒瀬ダムの撤去があったからなのか、ちょうどそのときの八代海の満潮時というものもございました。

河川公園など遊水池が広く八代は河口にございますので、その点でどうかこう救われたのか、偶然にそういうものの結果、または西回り台風時みたいに風が吹いた場合の高潮だったとすると大変なことになるんじゃないかなというような様々要件が重なってきて被害がでたところ、でていないところというふう

に思われます。
　やはり、治水対策というのは八代市や坂本町、球磨村、人吉などの地域地域で考えるというよりも、球磨川の本流、本流に注ぐ支流ですね、そういうようなことも考えて検討する必要があるのではないか。
　しかし、球磨川の治水対策として先ほども出ましたけれども、そのときの環境によっていろいろ判断が出て、今回の１２年間の議論が進められているというようなことは重々は我々も存じ上げておりますけれども、状況変化ということがあったときに、その状況を先ほど申しましたように、川辺川ダムの建設を含め、専門家による正確な調査、分析、それとその論議や検証に基づいて今回行われている本日のような地域の思いを受け止められまして、またその対策として経済性の観点からも早急な治水対策を進めていただきたいと思っております。
　そして、川を守るためにはやはりこの山を守るということが重要だと聞いております。やはり、川の整備と森林整備というようなものもあわせて行っていただきたいというふうに思っております。
　街の復興につきましては、八代はもともと球磨川の恵みの肥沃な干拓地を開拓したという発展の経緯もございますが、今回被害の大きかった坂本町の球磨川氾濫のところも多いというふうに数字的にも出ております。
　これを復興するには、まず治水対策の目処が立たないことにはなかなか住民の方が元の住居に再建、または移転という道筋が見えてこないのではないかと。
　昭和４０年の洪水に対する対策工事が終わり安心した矢先に今回それを上回る２メートルを上回っているようなデータも出ております。
　復旧復興といっても、難しいですけれども仮に熊本地震のときは多くの倒壊住宅や解体が行われて、その家屋解体を済ませれば地盤調査をしてその調査結果によって地盤改良を行えばすぐ住宅とか店舗は再建できる。
　しかし、今回治水というものができないとまず再建という目処が見えない。ですから、これは卵と鶏どちらが先かという話になりますけれども、大変こういう従来の震災よりも難しい内容になっているんではないかというふうに思います。
　再建をされるときに、現在の住民の方々の年齢構成とか家族の形態を踏まえますと、やはり街づくりに新たな若い世代の呼び込みが必要ではないかというふうに考えております。
　この状態のままで進めば、八代地域も含めまして消滅都市というように言われていますが、このスピードが速まるのではないかと、そういうなかで八代ではＭＡＲＵＫＵさんとかＳＵＮＡＢＡＣＯさんとか新たなビジネスをやられている会社がお見えでございます。

そこで、坂本町でも若い世代がリモートワークなどの新たなビジネスを定着できるようなことも含めて考えること。

そのためには、５Ｇなどの高速インターネットを整備して、そういう若い方々が都会からでもこちらの八代の坂本町に住めるんだというようなインフラ整備をして大きな考え方が必要ではないかと。

それと現状は坂本パーキングエリアのほうで工事用車両というかたちで通っておりますが、住民の方々の安心感等を考えますと一本の道しかないと。国道２１９号線を復旧したとしても一本の道というのは怖い。そのためには坂本パーキングエリアをスマートインターチェンジ化してそこの道路を拡幅工事などをして、今軽自動車がやっと通れる状態だというふうには聞いておりますけれども、そこのスマートインターチェンジと坂本町を結ぶ。そうしますと、複数のこういう道路網を作っていくと。

そういうなかで安心で安全な街が生まれるんではないかというふうに考えております。

また、今回の洪水対策、洪水での被害ともう一つは山の方で道路崩壊によって通れない、生活ができないという方々もおられます。そういう方々が山間部において山の保全というものを多分されていたというふうに考えますと、治山管理は重要な位置づけだというふうに思います。

先ほども森林組合の方からもございましたけれども、植林や間伐、切り出し等、一連の産業がなくなれば山は荒れて保水力などがなくなり、地滑りや山の崩落を招きかねません。

そこで、熊本県や八代市の森林整備計画に伴う若手林業育成事業をさらに強化していただいて、林業で若い世代が楽しみながら生活できる環境づくりというかたちで若い方々が林業にも入れる風土をより一層進めていただければというふうに思います。

そういうなかでできれば、特別経済区などの指定をいただきながらコンパクトシティというかたちで医療、福祉も集合したまちづくりというようなものを考えるべきではないかと。

最後に、復旧復興につきましては八代商工会議所も積極的に支援させていただきますので何か役割を我々も探しながら、またこういった場に出るところがあればいろいろ御提案、御提言をさせていただきたいというふうに思っています。

ありがとうございました。

【発言者⑦（八代市商工会）】

商工会でございます。よろしくお願いいたします。

ただ今、商工会議所からありましたように、当商工会では坂本支所がございます。よって、今回の令和２年７月豪雨災害によって、現在の坂本地区の商工業経済の活動は完全にストップいたしました。

現在は、再建に向けて動いていらっしゃる事業所も出てはおりますが、被災を機に事業の廃業を決意されたところも多数あります。

また、事業の拠点を八代市内および熊本市内に移されましたところも数件発生いたしました。

このような状況を鑑みまして、この坂本町の経済を元通りの状態に戻すためには本日の会合の主要議題であります球磨川流域の治水対策が急務であると思っております。どうか、坂本町が元通りの姿を取り戻すためにも、有効かつ安全な治水対策をよろしくお願いいたします。

私は、いろいろな治水対策がございましょうが、個人的にはダムによる治水対策が一番適しているんではないかと思っております。どうか今後の復旧計画を本日は蒲島知事も同席されておりますので、どうか急務にお願いいたします。

でないと、この坂本町はもう取り戻すことができないかもしれません。どうぞ行政の御協力、切にお願いいたしまして、私の意見といたします。よろしくお願いいたします。

【発言者⑧（八代青年会議所）】

八代青年会議所の〇〇と申します。本日は、理事長の方が所用につきまして参加できないことをお詫び申し上げます。

私たちは、２０歳から４０歳の後継者だったり、経営者になっているメンバーもいるんですけれども、そのメンバーで構成されて、日々明るい豊かな社会の創造をビジョンに掲げて活動している団体でございます。

なかなか、みんなが集って議論するという機会がなかったものですから、すべてのメンバーの意見を集約できたというわけではございませんけれども、私たちのほうが昨年八代市様と社会福祉協議会様と災害に対する協定を結ばせていただいておりまして、今年が１年目ということで、私どもは毎月例会なんかというものみんなで集まる機会を作っているんですけれども、今年に入って熊本地震から４年経ってということで、これから八代にも球磨川がありますので水害が起きるんじゃないかということで、社会福祉協議会様をお呼びしまして例会を行った翌月の水害でございました。

そういった準備をできていたということもあり、ボランティアセンターの立ち上げと一緒に、私たちも仕事がある中、メンバーの時間を作りながら参加させてもらった次第でございます。

私もボランティアの方たちが、ボランティアに来られて、活動ができるよう

に、軽トラックで物資を高速道路に乗って、しかも迂回しながら坂本の方にはいったのを非常に覚えております。

そういった観点からも、もちろんこちら今、治水対策ということでダムのお話が出ておりますけれども、報道等によりますと、あればこれで６割対策ができたんじゃないかというお話もありますとおり、非常にダムの問題は必要な治水対策じゃないかなというふうに考えております。

また、併せて、今回やはり、急に水位が上がったという話も伺っております。逃げる時間、時間稼ぎといいますか、ダムがあることによって皆さんが避難に動けるという時間を作れると思いますし、何よりも皆さんに知らせるという方法がこちらの有識者会議のなかにもありますけれども、テクノロジーを活用して、皆さんが共有して逃げるという時間を作るためにも、ダムは必要なことなんじゃないのかなと思います。

なかなか普段、こういったことを想定するというのも、なかなかあの状況では難しかったことを考えると、こういったダム等を造られることによって、逃げる時間というのも、皆さんができるんじゃないかなというふうに思います。

先程から、若い世代に、若い世代に、ということで、商工会議所の〇〇さんからもありましたけれども、これから人口の減少の状況にはいります。少子高齢化ということで、そこから避難される手段というのも、どういった形で避難ができるのかも考えていかなければならない問題かなと思います。それには道路の整備もそうですけれども、まずみんなが雨が危ない状態にある。これは予測の正確性とかもあるのかもしれないですけれども、危ない状態にあるというのを、まずはみんなが知って、では、どういう手段で逃げれるかと、そういったことが一番ダムを造ることもそうなのですけれども、命を守るという、最大の考え方からすると、一番大事なことなんじゃないのかなと思います。その中に、テクノロジーと含めて、雨を降らせないということは、雨を降らせる技術はあるような話を伺ったことがありますけれども、雨を降らせないという技術はなかなかないでしょうし、これからの課題だと思いますけれども、ダムを造るにしましても、それまでの時間は必ずダムがない状態で生活をしないといけないということを考えると、そういった逃げるための手段を考えないといけないと感じております。私のほうからは以上になります。今日はありがとうございます。

【発言者⑨（日本製紙株式会社）】

日本製紙八代工場工場の〇〇です。どうぞよろしくお願いいたします。

僭越ではございますが企業を代表してということで、弊社の意見を述べさせていただきます。

まずはこのたびの７月豪雨における弊社の被害につきまして、簡単に御報告させていただきます。

弊社、八代工場は、もともと坂本町からスタートしておりまして、その坂本町のほうで、旧最終処分場の一部崩壊、及び、旧発電所の建屋が流出する等の被害を受けております。

さらに災害の被害といたしましては、球磨川の濁度、要するに水の濁り、これの上昇によりまして、工場の操業が約２週間停止となりました。それに伴って、大幅な収益の悪化を招いたのですが、それに加えて、国内の新聞用紙供給逼迫の恐れということから、日本新聞協会では、緊急事態宣言を発令するに至っております。

弊社におきましては、工場で使用する水の９０％を、球磨川の（聞き取れず）より取水をしておりまして、球磨川の水は濁りますが、この濁った水をそのまま取水して、水無川に廃水で流すときは、規制値内に浄化して流さなければいけないということから、先般の豪雨のように濁りが大幅にひどくなりますと、設備的に水の浄化が追い付かないということになりますので、工場を全停止せざるをえません。

ここで要望ということになりますけれども、７月豪雨以降、実は球磨川の水の濁りがひどくなる傾向にございます。

その原因の一つとして、流域の山林の土砂崩れによるもの、それから水害による護岸の崩壊によりまして、おそらく土砂の流出があるんじゃないかというふうに推測をしております。

つきましては早期の山林整備並びに護岸の復元を行っていただきますように、まず一つ目の要望として述べさせていただきます。

もう一点ですけれども、工場の北側を流れる二級河川、県のほうで管理していただいている水無川についてでございます。

昭和５０年に球磨川の隧道を設置いただきまして、それ以降、水無川の氾濫というのが起きておりません。そのことに関しましては大変に感謝しております。しかしながら昨今の豪雨によって水無川の水位もかなり上がることがありまして、果たして堤防がもつのかという危惧がございます。これは地域の住民の方からの意見としても出ております。

可能であれば、堤防の強度を調査いただきまして、もし調査結果によって補修が必要ということであれば、その点も御検討いただければ、幸いでございます。以上、弊社における二点の要望を述べさせていただきました。よろしくお願いいたします。

【発言者⑩（熊本県建設業協会八代支部）】

建設業協会八代支部の〇〇でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、今、まだ見つかってらっしゃらない２名の方のうちのお一人が、我々の業界の関係者の方でございます。一日も早く見つかることを祈っております。

我々、建設業協会八代支部は、７月４日の豪雨発生、未明に発生したその６時頃ぐらいに支部に集まり、災害協定に基づき活動してまいりました。およそ１か月以上かかりましたけれども、啓開作業という形での完了はさせていただきました。

そのときに思ったことは、萩原の堤防のところにある１メートルくらいの、残り１メートルくらいのところまで水位が上昇しておったというような状況でありました。

その後、何日か後に、萩原の堤防に大学の教授なり、いろんな学識経験者の方が来られまして、降り立った瞬間に「この堤防は薄いね」と言われたのが、本当に心の中に焼き付いておりまして、私たちは日頃ずっとそこに通っているわけですけれども、薄いと言われるとはまさか思わずに、いろんなことを協会の方に帰ってお話をしたところでございました。

今回７月４日未明の豪雨災害、それから二次災害ではないのですけれども、後日大雨が降らしまして、そこでかなりまた崩れておりました。我々としましては１日でも早く１時間でも１秒でも早くそこの現場に行き、応急、復旧活動をし、住民の生命・財産を守る安心・安全を確保するというのが仕事です。

そのなかでは、やはりそこまでなかなか大型車両等が行けずにかなり苦慮をいたしました。できることならば、国道２１９号そして中津道八代線、ここはやられた状況でありましたけれども、何とか誘導、そしてその他の２１９号、八代につながる県道あたりがもう少ししっかりした幅員、そして整備がされておれば、もう少し迅速にある程度時間を短縮しながら作業をできたんじゃないかなというふうに思っております。

川辺川ダムに関しましては、検証をいただいて、少しでもリスクが回避でき、住民に安心と安全が与えられるのであれば、当然賛成という形で取らせていただきますし、それと同時に、やっぱり球磨川の下流域、まだまだ護岸そして河道掘削等々の整備が必要かと思います。

知事がおっしゃって、阿蘇の方では創造的復興とお話をされました。

ぜひ、創造的復興ですが、現況復旧というかたちではなく、もう少し、その時代、そしてその状況と環境に応じたそういう復旧復興を柱にやっていただきたいと思います。

本当に人命を守る仕事、そしてそこを造って、そこを水流によって壊された我々としては非常に悲しい切ない思いをしたものでございました。我々は知事

の創造的復旧・復興に関しまして、ぜひ我々も一生懸命に努力、協力していきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。以上です。

【発言者⑪（ＤＭＯやつしろ）】
　この度は、本会に発言の機会をいただきましてありがとうございます。ＤＭＯやつしろの〇〇と申します。
　当団体は、八代市で観光を中心とした地域活性化の事業を熊本県八代市はじめ、商農工・経済・文化・スポーツなど多様な関係者、周辺の地域と連携しながら、行っている団体でございます。
　まず八代市における観光面の現状ですが、球磨川流域におきましては、坂本町を中心に、道の駅、温泉センター、天文台、宿泊、飲食店等の施設に加えまして、ラフティングやカヌー、カヤックなど川遊びができるアウトドア関連業者、またアウトドア施設等が営業されておりました。現在営業再開されてらっしゃるところは、９月より温泉センターのクレオンさんと、さかもと八竜天文台さんが再開されておりまして、温泉センターの物産スペースでは、道の駅・坂本さんで取り扱われていた物産を一部販売されてらっしゃいます。
　治水に関しましては、勉強不足ではありますけれども、専門家の方々と、地域の方々と議論を重ねながら実施していただければというふうに思っておりますけれども、復旧復興に向けた御提案につきましては、この八代という球磨川流域の立地条件につきましては、県外の旅行業者から伺った話なのですが、インターチェンジや新幹線から降りて、車で３０分ほどで行けば川遊びができる場所は全国でも非常に珍しいというふうに伺っております。このアクセスのよさが球磨川流域での川遊び、アクティビティ、全国に誇れる観光スポットとして、水害のあとも変わらず自然や生態系を崩さないままの状態に復旧していただけましたならば、県内のみならず、全国からも観光客が訪れ、復興につながっていくものと思っております。その価値がこの球磨川にはあるものと確信しております。
　そのなかでも先日、八の字堰が、先日グッドデザイン賞を取られたということで、こちらは江戸時代に加藤清正が造った、治水・灌漑で造られたものを、復活させ、昨年５０年ぶりに至るということで、現在の技術で復元また環境にも配慮した点が評価されたということがございますので、いろんな形での安全・安心の治水対策をふまえて、環境にも配慮した、また観光にも伴なう治水対策・復旧復興を切に願っております。
　自然と環境と、人々の安全・安心というものは、表裏一体で、やはり切って切れないものだと思いますので、そちらも併せて考えながら治水対策を取っていただければと思っております。ＤＭＯやつしろからは以上でございます。

【発言者⑫（八代郡医師会）】
皆さんこんにちは。私は坂本で医院を開業しております〇〇と申します。私自身、治水に関しては分かりませんので、主に医療についてお話したいと思います。
まず、坂本での今までの医療についてお話いたします。私たちは父の代から５５年、一次救急診療所を開設してきており、時代に沿って、坂本に足りない外来リハビリテーション、通所リハビリテーション、介護事業所、訪問ヘルパー、訪問リハビリテーション、そして県から依頼があった訪問看護ステーション、地域リハビリテーションという様々な事業を、坂本で担っておりました。
さらに併設で、歯科診療所、調剤薬局があり、一次救急から末期がん、患者の在宅の看取りまで、２４時間対応で、地域の方を支えてまいりましたが、残念ながら今回の災害ですべてを失ってしまいました。
２４時間診療所が坂本には当院含めて２つあり、その点で申しますと、坂本は、非常に医療に恵まれていた地域ではなかったのかなと思っております。
しかし、坂本町は広大な面積を有しており、介護の面では距離が遠く、サービス提供時間より、訪問にかかる時間が長く、不採算地域として八代医師会の訪問看護、介護事業の恩恵を受けることができない地域でございました。
さらに、社協の撤退等もありまして、私個人としては、その穴埋めをすべく、事業を拡大してまいりました。従業員５０名というのは、一診療所としては、やはり多い事業所だったと思っております。
ただ、従業員不足は常にあり、田舎ですから若い看護師などは２１９号線は危ないので通勤できません。あるいは当直業務はできません。というような、やはり、どこでもある問題を多く坂本地区でも抱えておりました。
坂本復興のためには、やはり八代市街とつながる利便性の高い道路が必ず必要だと思っております。いくら建物を建てようが、働き手が来なくてはやはり何もできないという状況でございます。さらに安全な交通手段を確保することにより、脳卒中患者や心筋梗塞患者の救命救急率の確率が格段に上がるのではないかというふうに考えております。
また、距離の違いにおける利便性、市街地の介護格差をなくすことができるのではないかと考えております。超高齢者の町でございますので、高齢者の公共バス等の利用はなかなか困難でございます。その中で、移動手段は、玄関から玄関までの交通システムの確立が必須だと思っております。
次に、教育の復旧も急ぐ課題の一つだと思っております。今まで坂本町の若者が地元のためと思って、結構戻ってきてくれておりました。ただ、子供たちがいなくなるということは、今後、坂本で働こうという人たちが激減するということを意味しておりますので、やはり坂本で育っていただいて、地元に帰っ

ていただきたいという思いがございます。
　私もふるさとの坂本におるわけですけれども、私たちは今現在、患者様には非常に御迷惑をかけているわけですけれども、各公民館をお借りしまして、巡回診療でなんとか患者様の健康状態をチェックしている状況でございます。
　田舎の一番の強みは、コミュニティにおける相互扶助、共助でございました。腰が痛くて、食事が作れないということであれば、御近所さんが食事を作って持って行ったり、あるいは具合が悪ければ、車を持っている方が夜中でも病院に連れてきていただいたり、そういうようなシステムが非常に強い地区でございましたが、それが現在崩壊してしまったということでございます。
　若い世代は坂本を離れ、高齢化が非常に急なスピードで、多分、６０％越え、７０％近くなるんじゃないかと、非常に懸念しているところでございます。近々の課題として、この冬に起こる感染症、高齢者の感染症患者、これをどうしようかという思いでおります。
　今までは、コロナの影響もございまして、感染症患者のベッドの確保が非常に困難な予想がされております。もちろん、施設の利用その他は感染症患者については、まったく期待できないと。坂本に２施設あって、２０～２５ベッドぐらいあって、完全に失ってしまったので、坂本の感染症患者をどこにどう守ってあげようかなというのが、一番の心配事でございます。
　こないだ、先月は、坂本中学校の検診に行ってまいりました。現在、日奈久中学校に一緒に通っております。養護の先生方の話では、昼休み体育館で遊んでいいよといっても、既存の生徒に遠慮して遊びにいかない子も多くいる。
　また、被災した直後に比べれば今は幸せですという子もおりました。「せめて卒業式は坂本でやりたいね」と言葉を残してまいりましたが、やはり我慢している子供達のメンタルケアに早急に手を差し伸べる必要があるのではないかと思っております。
　被災後３カ月が経過いたしまして、一番私が感じていることは、高齢者の運動機能の低下が著しいということであります。坂本では９０歳になっても畑仕事、坂道を行き来することによって、市街地の方よりかなりすぐれた運動機能を有された方が多かったのですけれども、今は筋肉が落ちて杖や補助具を使う方々が非常に多く目立ってきております。
　道路整備や住居環境が整うまでは、やはり手厚い運動機能維持の、あるいは改善の施策が必要ではないのかなと思っております。
　次に、中・長期的な問題として、やはり人口減少、不便なところでありますと無医地区となるようなことを考えておかなければなりません。
　私も５５歳で、あと１０年、１５年は頑張れるかもしれませんけれども、働き手不足、労働者不足になってきますと、次に医師が来てくれる可能性は非常

に薄くなってくるんじゃなかろうかと懸念しております。
　やはり安心。しかも今回の被災で薬局と歯科診療所は、すでに撤退されてしまいまして、医療だけが何とか残っているという状況でございます。安心して暮らせるまちづくりというのは、医療介護のバックアップなしではなしえないことではないかなと思っております。
　しかし、現在の医療制度では、診療所や薬局を掛け持ちしてやっていくことが非常に困難な障害がございます。ですが、地方の少ない人材で、補っていくためには、どうしても一人二役、三役していかないと、マンパワーがとても僻地では足りないということで、ＩＴ化も含めて、これからどんどん増えていくであろう過疎地域に対する医療機能継続のあり方をぜひとも御検討および御教示御鞭撻賜りますようお願い申し上げます。
　最後になってしまいましたが、被災後、行政の方々には、我々の思いに耳を傾け、御協力を賜りましたことを心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

【発言者⑬（八代市社会福祉協議会）】
　八代市社会福祉協議会の〇〇です。
　まず、私の方から福祉の観点からお話をさせていただきたいと思いますけれども、そもそも社会福祉協議会のほうは、使命として、地域の人々の方々の生活支援であるとか、地域福祉活動に重点をおいてやっておりますけれども、今回被災されました坂本地域においては高齢化が非常に高いということで、従来から生活支援という部分で、地域の皆様方の協力を得ながら３年前から生活支援コーディネーターというのを設置して、要はそこに力を入れて、互助であったり、共助であったり、それから地域の社会資源とを組み合わせてどのように生活をしていくのかというところで、力を入れてきたところの矢先に、こういった被害に遭われたというような状況になっています。
　被害に遭われたというところで、うちの方としましては、市の方からの要請もありまして、災害ボランティアセンターを立ち上げまして、被災者宅の、応急的な活動として、お宅の泥出しだったり家財出しだったりとか、そういったところで活動してきたところであります。
　その中で先程からありましたけれども、青年会議所であるとか、氷川町の社協さんあたりと協定を結んでおりましたので、大変なところもありましたけれども、何とか活動ができてきたというふうなところでありまして、その中で活動するなかで、どうしても難しい部分があったのですが、一つ、特に道路という部分で、どうしても寸断されてしまって、活動がうまくできないと、ボランティアさんを送り込めないという状況がありまして、非常にジレンマがござい

ました。そういった中で高速のパーキングから通れるような状況もあったのですが、どうしても道路が狭いというところで、大変に苦慮しました。

そういったところから、一つは、道路のアクセスという部分で先程からありましたけれども、高速道路のサービスエリア化とか、それから複線化、迂回路であるとか、そういった部分の整備というのが非常に大事なのかなと。起きた範囲の話なのですけれども、というのはちょっと感じたところです。

それから、〇〇さんの話からもありましたけれども、地域のつながりが非常に強いところで、お互いに助け合いがあっているという地域でございましたけれども、この地域のコミュニティが崩壊しているような状況があります。

その中でやはり、坂本で暮らすには、そういった皆さんの協力、お互いの互助、共助といった面が非常に大事になってきます。復興するに当たって、そこを再生していくというのが非常に大きなポイントであると考えます。

今、ちりぢり、バラバラになっている方々が地域に戻ってきて、今まで生活していた顔ぶれで、やはり再生するというのが非常に大事なポイントになってくるのではないかなと思います。

そういったときに、ちりぢり、バラバラになってらっしゃる方々が、コミュニケーションが今取れない状況になっておりますので、そういった方々のコミュニケーションを取る場、集まる場とか、そういったものも非常に大事になってくるのかなと思います。

高齢化されている方々、一人暮らしであったり、夫婦世帯でありますけれども、そういった方々の今の段階としての大事なところというのは、やはり見守りであるとか、先生が言われたように、身体機能のレベルの低下、機能の低下というのを考えるときに、やっぱり人と人との交流というのが非常に大事だというふうにも言われております。

そういった部分を大事にしていかないといけないのかなと思いますし、安否確認という意味では、なかなかコロナで訪問ができないという状況もありますけれども、そういった中で考えるときに、ＩＣＴというような部分の活用も必要になってくるのではないかなと考えております。

地域に帰られるときに、嵩上げであるとか、代替地の部分であるとか、そういった部分も考えられると思うのですけれども、やはり今までの顔ぶれで住んでいた人たちが集まれるというようなことも非常に大きな視点として考えていただければなというふうに思います。私のほうからは以上です。

【発言者⑭（社会福祉法人権現福祉会　介護老人保健施設　向春苑）】
今日は遅れてきて申し訳ありませんでした。社会福祉法人権現福祉会の〇〇と申します。

実は私どもは、２年くらい前に、坂本町にあります高齢者のグループホーム、２ユニットで定員が１８人ですけれども、これを譲り受けました。

そのときに、当時の理事長さんに、このへんは水に浸かることはありますかと確認しましたら、今までで一度もありませんということを返事をいただきましたけれども、その時点でその施設の避難場所といいますのは、球磨川沿いの上流２キロくらい上りましたところにあります地域のコミュニティセンター、そこが避難場所だったわけです。

しかしながら、地形的に山が迫ってきていますし、もし、がけ崩れ等が発生しますと、道路が寸断される恐れがあるものですから、そしてまた、認知症の方というのは、環境が変わりますと非常に不安定になられます。一般の避難所では、トイレ等の問題も発生してきます。

実は、そのころ浸水とか土砂災害の発生が想定される区域の福祉施設あるいは医療機関につきましては、避難確保計画の作成が義務付けられました。従いましては、私どもも、その施設の取得後、それまでの避難場所を、今度は上流ではなくて、下流の平坦部にあります私どもの同じグループ内の鉄筋コンクリート建て三階の建物に計画の見直しを行いました。

ちょうど７月４日の豪雨災害のときには、坂本のほうの施設は床上浸水しましたけれども、その前に、１８人全員を計画に沿いまして、避難誘導しまして、無事に災害を乗り越えることができました。

実は、そのときのことを読売新聞さんが取り上げてくれまして、「避難計画、訓練生きた」という見出しでありまして、私はこの記事見ながら、私も初めて知ったのですけれども、避難確保計画が今年一月一日現在で作成されているのは全国で４４％、それから実際に訓練を行っているのは１７％という数字が出ておりました。

ところが、熊本県につきましては、計画自体がまだ５％ということですから、実際の訓練になりますと、それ以下の数字ということが予測されるのではないかということになります。作成率が低い背景には、いろいろ考えられますけれども、これが法律で義務付けられてまだ日が浅いということ、そして関係します福祉施設あるいは医療機関が、この計画の作成自体が義務付けられていることをまだ御存知ないところもかなり多いのではないかということを思っています。

そういうことから、行政の方からそういった計画の作成の周知をしていただきまして、それと、なおかつ計画に沿って避難ができるように、日頃の訓練の指導までお願いできればと思っております。

それがソフト面でのお願いとしますと、もう一点がハード面でいいますと、先程からお話が出ておりましたように、球磨川全般的に言えることですけれど

も、豪雨前に比べまして、洲といいますか、大きな洲、土砂が非常に堆積しております。

先程の説明の中で、全国花火大会の会場のところは、掘削予定ということもありましたけれども、植柳橋の下流辺りから大きな洲ができています。多分長さ的に３００メートルから４００メートルくらいありますから、堤防の上から、川床と陸地の方を見ますと、すでに天井川のような状態に見えます。

私たちが子どもの頃は、あの付近は砂利採取が常時行われていましたし、そういったことで、ある程度川床が上がるのを防いでいたのかなと思いますし、先程からダムをはじめいろんな対策が取り上げられている、これから検討されるかと思いますけれども、そういった下流域の土砂の状況も加えていただければなと思います。以上です。よろしくお願いします。

【発言者⑮（八代市立八竜小学校）】

坂本町に唯一あります小学校、八竜小学校でございます。よろしくお願いします。

発災後本校では３名の児童がすでに転出し、現在、児童数５９人、世帯数は４３世帯となって、現在は遠く離れました日奈久小学校のほうをお借りして、教育活動を行っております。

４３世帯中、１７世帯が仮設住宅、みなし仮設等で、坂本を離れ、八代市街地で住居を構えておられますが、すべての保護者が八竜小学校への通学を希望し、区域外通学の許可もおりています。

八竜小学校卒業後も地元の坂本中学校への進学を希望されておられます。これも、これまで坂本の方々の中に「子どもは地域の宝」という強い思いがありまして、我々の地域と坂本とともにある学校を先生方と一緒に目指してきた成果ではないかと思っております。

そのような中、子ども達、保護者、教職員、そして地域の皆さまが願っているのは、一日も早い八竜小学校での学校再開でございます。待ったなしの状況に来ているのではないかと私は思っております。

そのためには国道２１９号線の早期復旧と安全確保でございます。もちろん、国道２１９号線につきましては、昨日も話し合いを行いましたが、国、県の御努力により、急ピッチで復旧が進んでいるところでございます。２１９号線は、地域の基幹道路であるとともに、八竜小にとっては通学路として欠かせない道でございますので、お願いではございますが、崩落している護岸のさらに強いガードレールの設置、及び片側通行の場所に仮設の信号機を設置していただけましたら、一日も早く子どもたちを安全・安心に八竜小学校まで、届けることができますのでよろしくお願いします。

坂本での住宅再建を考えている保護者の方もたくさんおられます。子ども達が将来大人になっても、安全・安心に過ごせる坂本であってほしいと仰ってますので、まさに未来を創る子ども達ですので、今スピード感をもって、取り組むことが１０年後、２０年後の坂本につながるのではないかと〇〇としては思っています。

知事がよくおっしゃられる創造的復興に関しましては、今日の委員の皆さんからも出ましたが、今学校では国のＧＩＧＡスクール構想という施策が進んでおりまして、一人一台タブレットを活用する時代になりまして、それを家庭に持ち帰ります。高速度の通信網が整備されれば、有識者会議の委員の話にありますように、防災、福祉、医療、教育、すべてを関連付けることができますし、これからの時代のこと、坂本の魅力発信、人材確保にもつながるのではないかと我々教職員よく話をしておりましたので、ぜひそこも御検討していただけたらと思います。今日は貴重な時間をいただきまして、ありがとうございました。

【発言者⑯（八代市立坂本中学校）】

坂本中学校の〇〇でございます。本日は、発言の機会をいただきありがとうございます。

まず本校の全校生徒でございますが、現在３３名です。今回の豪雨災害に熊本市に転出した生徒が１名おります。残り、本校に在籍しているという状況です。

７月４日の発災により、臨時休業となりましたけれども、受験を控えた３年生のことも考えますと、いち早く生徒の学習機会を確保する必要があると考えて、７月１５日から、桜十字ホールやつしろ、それと坂本の山間部にあります鶴喰生活改善センターこの二か所で学びを再開いたしました。生徒の半数近くが住宅に被害を受け、中には自宅が流出するなどの大きな被害があった生徒もおりますので、学び再開後は、すべての生徒に個別のカウンセリングをお願いするなど、生徒の心のケアを最優先に考えてまいってきたところでございます。

子供たちの支援に主幹教諭やあるいはスクールカウンセラーを派遣いただきました。県教育委員会並びに八代市教育委員会、そして県内をはじめ全国各地から様々な御支援や励ましのメッセージをいただきましたことに深くお礼を申し上げたいと思います。

８月３日からは日奈久中学校、今お話がありましたけれども、教室をお借りして、教育活動を再開できましたことにとても感謝しております。日奈久中学校では学校の教室を移動しまして同じ階に坂本中学校の教室を集中させていただくとともに、理科室だとか、あるいは音楽室など特別教室の使用にも配慮いただいたことで、生徒たちは落ち着いて学校生活を送ることができるようにな

りました。

現在、生徒３３名のうち、坂本町の自宅で生活しておりますのが１８名。避難先の八代市街地で生活している生徒が１５名おります。これらの生徒を八竜小学校の〇〇からもありましたように、６台のスクールバスで便乗させていただいて、送迎をさせていただいているところです。下校時は１６時２０分ということで学校を出発することになりますので、部活動等やあるいは生徒会活動など中学生にとりましては大切な時間、放課後の時間が活動できないという部分はありますけれども、そういったところが今後の課題になっているというところです。

生徒たちは明るく学校生活を送っておりますけれども、現在３人のスクールカウンセラーに週１回程度、来校していただき、引き続き生徒、そして本校職員の心のケアに注力してまいっているところでございます。

また保護者の中にも災害後の生活の変化などで不安を感じられている方がいらっしゃいます。そういう方々にはスクールソーシャルワーカーを派遣していただいて、不安を解消ということで取組みを行っているところです。

次に教育課程の状況についてでございますけれども、新型コロナウイルス感染拡大防止、そして今回の豪雨災害による休校のために授業の遅れが気になるところでしたけれども、どうにか平常に取り戻せている状況でございます。

学校生活の中では、子ども達には辛い思いをさせない。そして今以上に人と人との絆をしっかり深めていくということで、１０月には地域の学習、そして校内のクラスマッチを計画しました。そして実施しております。生徒はもちろん職員につきましても日奈久中学校と交流を深めていき、さらに充実した学校生活を生徒とともに送っていきたいというふうに考えているところです。

現在、生徒たちは１１月２０日に予定しております学習発表会に向けて、準備をして参っているところでございます。生徒、保護者、地域の方々、そして職員の願いとしましては、早く元に帰りたいということがありますけど、とにかく卒業式は是非、思い出ある坂本中学校の校舎で行ないたいという希望を非常にひしひしと感じているところでございます。

子ども達は坂本地域の宝でございます。これからも生徒一人一人にしっかりと目を配りながら、心を配って、ピンチをチャンスに変えるべく教育活動の充実に取り組んでまいります。引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げまして坂本中学校の説明とさせていただきます。本日はありがとうございました。

（以　上）